

渋沢栄一の生涯（一八四〇年～一九三一年）



渋沢栄一 [渋沢史料館所蔵]

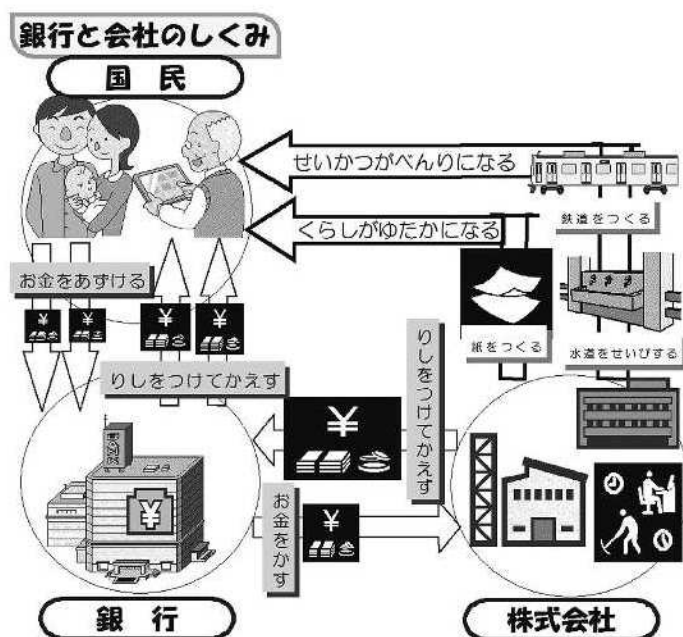
澁沢栄一は今か

歴^{れき}しに興^{きよう}味^みをもち、父^{ちち}やいこの尾^お高^{たか}倅^{けん}忠^{ちゆう}から学^{がく}
問^{もん}を学^{まな}びました。また、家^{いえ}の仕^し事^{ごと}である養^{よう}蚕^{さん}や藍^{あい}
玉^{たま}づくりにも精^{せい}を出^だしました。

日本がまだ「武士の時代」だったところ、二十七年の若き栄一はヨーロッパに向かいました。一年あまりの生活で、栄一は外国の進んだ技術、身分制度のない平等で豊かな社会に大変驚きました。帰国すると、武士の時代は終わり、明治の「新しい世の中」となっていました。栄一は、外国で学んだ知識を生かして、静岡に「株式会社」のもとをつくりました。また、明治政府の役人として招かれ、税金や貨幣の制度、鉄道の敷設など、新しい国づくりのために力を注ぎました。世界文化遺

産「富岡製糸場」の建設や計画にも栄一は力を発揮しています。

三十三歳になった栄一は、「日本も社会の豊かさや国民の幸せのために、ヨーロッパやアメリカの国々のように商工業をさかんにしなければならぬ」と考え、政府の役人をやめました。その後栄一は日本で最初の銀行である第一国立銀行をはじめ、五百以上の会社の設立に関わりました。



栄一がたくさんの会社をつくったのは、自らが
お金をもうけるためではありません。会社がつ
くったものによって「国民全体」を豊かにし、便
利で安心したくらしができるようになることを考
え、当時の日本に必要なと考えた会社を次々とつ
くっていったのです。

栄一は、日本全体が豊かになるためには、会社
や工場をつくるだけでなく、人を育てる「学校」
や、困っている人たちを助ける「病院」や「養護
施設」も必要だと考えていました。中でも、栄一
が三十六歳のときには、仕事で忙しいところでし
たが、東京の養育院に関わり始めます。養育院は、
身寄りのない子どもや老人、障害のある人を保護
する施設で、栄一は亡くなるまで院長として、そ
の運営に関わりました。また、学校の設立では、
軽視されがちであった商業教育や女子教育にも目
を向け、これからの人材の育成に力を尽くしまし
た。こうした社会福祉のために積極的に関わる気
持ちや姿勢の根底には、幼少期に学んだ「論語」
と、その精神「忠恕の心（まごころと思いやり）」
があります。また、仕事熱心で何事にもまじめに

取り組む父親と、近所の病人の世話を進んでする
など誰にでも親切だった母親の存在もあったにち
がいありません。

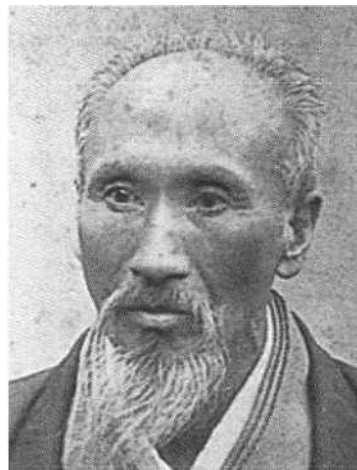
「…お互いに自分の国の利益のみを主張してはい
けません。お互いのために幸福を増すということ
を考えなければいけません…」これは世界中の多
くの国が巻き込まれた戦争が終わった後の栄一の
言葉です。栄一は、国際関係にあっても「忠恕の心」
が大切であると考え、国際平和の実現を追い求め
ました。昭和時代に入り、日本とアメリカの関係
が悪くなったときには、かねてから親交のあった
ギューリック博士と両国の関係を改善するために、
人形の交換による交流事業を行いました。将来を
担う子どもたちのお互いの理解を進めるためでし
た。このほかにも、アメリカのグラント大統領や
インドの詩人タゴールらとも親交を結ぶなど、民
間外交を担い、幅広く国際親善に尽くしました。
栄一は日本の近代化（新しい国づくり）に大き
な足跡を残し、一九三一（昭和六）年十一月十一
日、東京飛鳥山の自宅にて、九十一年の生涯を終
えました。

年 代	年 齢	お も な で き ご と
1840 (天保11) てんぽう	0	●2月13日 現在の深谷市血洗島に生まれる げんざい ち ありじま
1847 (弘化4) こう か	7	●中国の古い書物や日本の歴史などを学ぶ ちゅうごく ふる しょもつ くれき し まな
1854 (安政1) あんせい	14	●家の仕事 (養蚕、藍玉づくり) に精をだす いえ しごと ようさん あいだま せい
1861 (文久元) ぶんきゅうがん	21	●江戸に行き、武芸や学問を学ぶ え ど い おげい がくもん
1863 (文久3)	23	●高崎城乗っ取り計画を中止し、京都へのがれる たかさきじょう の と けいかく ちゅう し きょうと
1864 (元治元) げん じ	24	●一橋家 (後の将軍徳川慶喜) に仕える ひとつばし け のち しょうぐんとくがわよしのお つか
1867 (慶応3) けいおう	27	●将軍慶喜の弟昭武に従い、 ヨーロッパに向かう おとうとあきたけ したが
1868 (明治元) めい じ	28	●ヨーロッパから帰国する きこく
1869 (明治2)	29	●明治政府の役人となり、新しい改革を進める せい ふ やくにん あたら かいかく すす
1873 (明治6)	33	●明治政府をやめ、第一国立銀行総監役となる だいいちこくりつぎんこうそうかんやく
1876 (明治9)	36	●東京養育院の院長となる とうきょうよういくいん いんちょう
たくさんの会社や工場、学校、福祉施設などの設立にかかわる かいしゃ こうじょう がっこう ふくし し せつ せつりつ		



年 代	年 齢	お も な で き ご と
1887 (明治20)	47	●深谷にレンガ工場ができる 
1902 (明治35)	62	●アメリカ、ヨーロッパを訪問、国際親善につとめる ほうもん こくさいしんぜん
1909 (明治42)	69	●渡米実業団の団長としてアメリカを訪問する と べいじつぎやうだん だんちやう
国際親善や国際交流、社会公共事業(福祉)などに力をつくす こくりゆう しゃかいこうきやうじぎやう		
1914 (大正3)	74	●日本と中国の親善に向け中国を訪問する たいしやう
1915 (大正4)	75	●日本とアメリカの親善のため、アメリカを訪問する
1916 (大正5)	76	●第一銀行頭取をやめる とうどり
1920 (大正9)	80	●国際連盟協会の会長となる れんめいぎやうかい かいちやう
1921 (大正10)	81	●日本とアメリカの親善のため、アメリカを訪問する
1923 (大正12)	83	●関東大震災発生、復旧・復興に力をつくす かんとうだいしんさいはっせい ふっきやうふっこう
1927 (昭和2)	87	●日本とアメリカの人形の交換を進める しやうわ にんぎやう こうかん すす
1931 (昭和6)	91	●11月11日死去、東京の谷中墓地に眠る しきよ やなかぼち ねむ

尾高惇忠（一八三〇年～一九〇一年）



尾高惇忠〔渋沢栄一記念館所蔵〕

尾高惇忠は今か

ら一九〇年も前、

現在の深谷市下手

計に生まれました。

母親が渋沢栄一の

父の姉であるため、

惇忠は栄一の十歳

上のいとこにあたります。家では農業と、米や油、

塩などの商売を行っていました。惇忠は商売の暇

なときは農業をし、農業の暇を見つけては商売を

していました。学問への情熱もあり、読書に励み

ました。十七歳のころには家で塾を開き、近所の

子どもたちに「論語」などの学問を教えるほどで

した。栄一にとっても惇忠は学問の先生であり、

何かことあれば相談するなど生涯の中で最も信頼

していた人物でした。

明治時代のはじめ、農業用水である「備前堀」

の水の取り入れ口を変更する計画が大きな問題と

なりました。取り入れ口を変えることで、洪水や

水不足が心配される地域ができてしまうというの

です。こうした一大事に、惇忠は地元の代表として政府に計画の不備を説明し、この計画を中止にさせることができました。

こうした惇忠の才能と人柄が認められ、その後、惇忠は富岡製糸場建設の責任者となります。フランスの技術による建設であり、いまだ見たこともない大製糸場の建設ですから、さまざまな問題がありました。それでも、惇忠は先頭に立って木材の手配や、かわら・レンガの製造など、誠意をもって指揮をとり、製糸場を完成させ、初代製糸場長として力を尽くしました。「外国人は女性の生き血を吸う」という誤解が各地に広まり、工場で働く女性が集まらなかった時も、自分の娘である勇を工女第一号として採用しました。その努力が実り、各地から工女が集まり、無事操業を開始することができました。

その後、惇忠は、東京のガス局や養育院、第一国立銀行（盛岡支店）など、栄一の関係する事業に力を注ぎました。盛岡ではこれまでの経験をもとに、実業家を育てたり会社の設立に関わったりするなど、地域の産業の発展に努力しました。

荏塚直次郎（一八二三年～一八九八年）



荏塚直次郎【個人所蔵】

荏塚直次郎は、今から二〇〇年近く前に生まれました。両親が尾高惇忠の家で働いていたため七歳まで尾高家で過ごしました。その後、直次郎は、明戸村（現在の深谷市明戸）の荏塚家に養子に入り、荏塚姓となりました。そして、二十才から八年間、直次郎は尾高家で農業や商売の仕事を学び、再び明戸へもどりました。明治時代のはじめ、農業用水である「備前堀」の水の取り入れ口を変更する計画が大きな問題となりました。地元の関係者だけの話し合いでは収まらなかったため、直次郎は問題の解決のために、当時、東京にいた惇忠のところへ相談に向かいました。直次郎は、地元の人々が困っているとき、我先にかけつけて行動する人でした。明治政府による富岡製糸場の建設が始まると、直次郎は製糸場建設の責任者となった尾高惇忠か

ら、資材調達のまとめ役を任せました。直次郎はその期待に応えるため富岡に向かい、深谷と富岡周辺のかわら職人を呼び集め、製糸場建設に必要なかわらやレンガをつくり始めました。初めてつくるレンガは失敗の連続でしたが、何度も何度も試作を重ね、ついにレンガを焼くことに成功しました。そのとき、「天にも昇るような気持ちだった」と惇忠に語ったそうです。その後、直次郎は富岡製糸場の完成を感謝して、工場全景を写した絵馬を笹森稲荷神社（甘楽町）と永明稲荷神社（深谷市）にそれぞれ奉納しました。操業が始まると、直次郎は富岡製糸場の賄い方（食料の調達）を請け負うとともに、自ら製糸場を設立し経営にあたりました。また、妻の出身地が彦根（滋賀県）であることから、その方面から多数の工女を呼びよせました。その後、深谷の地（現在の上敷免）に機械を用いたレンガ工場が建設されることになると、渋沢栄一からの依頼もあり、直次郎はこの工場の建設が地元の利益になることを人々に伝えるなど、村々の人たちとの調整役として活躍しました。

かしまじんじゃ
鹿島神社には栄一翁の母が病氣
の人の背中をながしてあげた共同
風呂がありました。



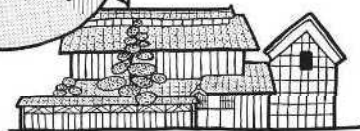
かしまじんじゃ
鹿島神社と大けやき

しづさわえいいちおう ち 渋沢栄一翁ゆかりの地

栄一翁が「論語」をはじめ、日本や
中国の昔の本などを習いに尾高惇忠の
家まで通った道です。栄一翁は、子ど
ものころから読書が大好きでした。



おだかじゅんちゅう せい か
尾高惇忠の生家



れん が しりょうかん
日本煉瓦史料館

日本煉瓦製造株式
会社の事務所として
使われていました。



誠之堂は栄一翁の77歳
のお祝いとして、清風亭は
栄一の後継第一銀行をつい
だ佐々木勇之助の70歳の
お祝いとして、東京に建て
られました。平成11年に
深谷に移されました。

せい し どう
誠之堂



こ やまかわ
小山川

せいふうてい
清風亭



調べてみましょう。

- 渋沢栄一記念館 深谷市下手計1204 → 「渋沢栄一記念館ホームページ」
- 渋沢栄一生地「中の家」、誠之堂・清風亭、日本煉瓦史料館、尾高惇忠生家
→ 問い合わせ：「深谷市教育委員会文化振興課」、「深谷市ホームページ」
- 渋沢史料館 東京都北区西ヶ原2-16-1 → 「渋沢史料館ホームページ」
- 富岡製糸場（日本で最初の製糸工場） → 「富岡製糸場ホームページ」
- 田島弥平旧宅（養蚕農家のモデル） → 「伊勢崎市ホームページ」
- 高山社跡（養蚕の技術を学ぶ） → 「藤岡市ホームページ」
- 荒船風穴（冷気を利用して蚕の卵を保存） → 「下仁田町ホームページ」

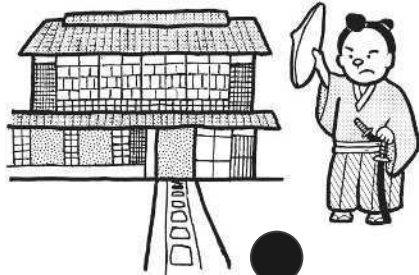


げんざい たてもの めいじ
現在の建物は、明治26年
から28年にかけて建てな
おされたものです。生まれ
た家は、当時「中の家」と
よばれていました。

しづさわえいいち き ねんかん やつもとこうみんかん
渋沢栄一記念館・八基公民館



しづさわえいいちおう せいち
渋沢栄一翁の生地



かんない しゃしん
館内には栄一翁の写
真などたくさん
さんの資料が展示
されています。

また、栄一翁の命日には、
「にぼうと会」が行われます。



ろんご
論語の里

栄一翁が生まれ、「論語」を学んだ
深谷市血洗島・下手計周辺の地域を
「論語の里」と呼び、栄一翁関連史跡
が集中しています。



すわじんじゃ ちあらいじま ししまい
諏訪神社と血洗島の獅子舞

でんとう ししまい
伝統の獅子舞は、栄一翁がとても好んでいたと言われています。



「論語」は、孔子という人の言葉を中心にとめられた中国の古い時代の文章です。渋沢栄一翁は、子どものころから「論語」に親しんでいました。みんなで声に出して読んでみましょう。

◆子曰く、巧言令色には鮮し仁。

たくみな話で、見かけだけにこだわっている人には、相手を思いやる心があるとはいえません。

◆子曰く、剛毅木訥は仁に近し。

話がじょうずでなくても、自分の考えをしつかりもっている人は、学んでいくと、思いやりの心を身につけていくものです。

◆子曰く、徳は孤ならず、必ず隣あり。

人として正しい行動をとっている人は、けっして一人きりになるようなことはありません。自分の考えや気持ちをはっきりとわかってくれる友だちや仲間が必ずあらわれます。

◆子曰く、過つて改めざる、これを過ちといふ。

人はだれにでも過ち（失敗）があります。過ちに気がつき、改めることができれば、もう過ちではありません。過ちをそのままにしたり、ごまかしたりして改めないことを、「過ち」といふのです。



「この言葉と似たような経験があるのではないですか。自分の行動をふりかえって考えてみましょう。」

◆子曰く、学びて時にこれを習う。また説ばしからずや。朋遠方より来たるあり。また楽しからずや。

勉強^{べんきょう}をして、それをふだんから復習^{ふくしゅう}をすると、その学んだものは、自分の力^{ちから}になります。なんともうれしいことではありませんか。

同じ勉強をしている友だちがたずねてきて、いつしよに勉強していけば、ますます自分の力^{ちから}がついていきます。これもまた楽しいことではありませんか。



「わたしは、子どものころから何度^{なんど}も何度^{なんど}もくり返し^{かえ}し『論語』を読んでいました。みなさんは本^{ほん}からどんなことを学びましたか。」

◆ 子曰^{し いわ}く、父母^{ふぼ}は、ただその疾^{やまい}をこれ憂^{うれ}う。

お父^{とう}さんやお母^{かあ}さんは、ただ子どもが病^{びよう}気^きにならないように心配^{しんぱい}するばかりです。親^{おや}に心配^{しんぱい}をさせたりしないようにすることが孝行^{こうこう}となるのです。

ふかや じんぶつ 深谷ゆかりの人物 その1

富岡製糸場の建設・運営にかかわった「深谷の三偉人」



渋沢栄一
[渋沢栄一記念館所蔵]



荻塚直次郎
[個人所蔵]



尾高惇忠
[渋沢栄一記念館所蔵]



【設立当時の富岡製糸場】 【群馬県立歴史博物館所蔵】

※ 平成26年6月、世界文化遺産に登録された富岡製糸場の設立には、現在の深谷市出身の、渋沢栄一、尾高惇忠、荻塚直次郎が、さまざまな形で尽力しました。

「近代日本資本主義経済の父と言われた栄一」、「栄一の師であり、初代富岡製糸場長となった惇忠」、「富岡製糸場建設に力を尽くした直次郎」、深谷市では三偉人の顕彰に努めています。

深谷市からは、渋沢栄一翁や生沢クノ女史など多くの先人が出ています。深谷の先人たちのことを知り、理解し、「ふるさと深谷」のことを学んでいきましょう。

ふかや 深谷ゆかりの人物 じんぶつ その2

●児童文学作家

きたがわちよ
北川千代

(一八九四年～一九六五年)

一八九四年、大寄村（現在の深谷市大寄地区）にあったレンガ工場の工場長の家に生まれました。本が好きだった千代は、大人になると児童文学作家として活躍しました。千代の作品には、千代が子どものころ過ごした大寄地区やレンガ工場の様子が登場してきます。



北川千代
[深谷市所蔵]

●女医二号

いくさわ
生沢クノ（一八六四年～一九四五年）

一八六四年、深谷宿（現在の深谷地区）の医師の家に生まれました。十三歳のときに「女医」になることを決意し、東京に出て勉強しました。当時は、

●江戸時代の和算家

ふじたゆうざん
藤田雄山

(一七三四年～一八〇七年)

一七三四年、本田村（現在の深谷市川本地区）の名主の家に生まれ、幼いころから父親に算術（和算）の手ほどきをうけていました。二十三歳の時には江戸に出て算術を学び、関流和算の免許をさずけられました。雄山が編集した「精要算法」は、和算の教科書として多くの人に活用されました。



雄山肖像画
[日本学士院所蔵]

●源平の合戦で活躍した武蔵武士

はややましげただ
畠山重忠

(一一六四年～一二〇五年)

一一六四年、畠山莊（現在の深谷市川本地区）に生まれました。平安時代末期から鎌倉時代初期にかけて活躍し、鎌倉武士の模範とたたえられた武將でした。源平合戦では数々のエピソードを残しましたが、特に一ノ谷の合戦で、愛馬三日月を背負って急な崖をくだった話が有名です。



ひよどり越えの像
畠山重忠公史跡公園

女の人は医師になることが認められていない時代でしたが、必ず希望がかなう日がくると信じて努力を重ねました。そして、二十三歳の時、医師の試験に合格し、熊谷市の荻野吟子に続いて、日本で二人目の女医になることができました。



生沢クノ
[深谷市所蔵]

●埼玉県初のオリンピック選手

野口源三郎（一八八八年～一九六七年）

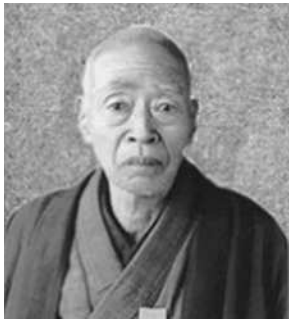


野口源三郎
[岡部町人物史より]

一八八八年、横瀬村（現在の深谷市八基地区）に生まれ、後に岡部村（現在の深谷市南地区）の野口家の養子となりました。一九二〇年、埼玉県初のオリンピック選手となり、日本チームの主将として、第七回アントワープオリンピック大会に出場しました。十種競技に出場し十二位になりました。後に大学教授となりました。

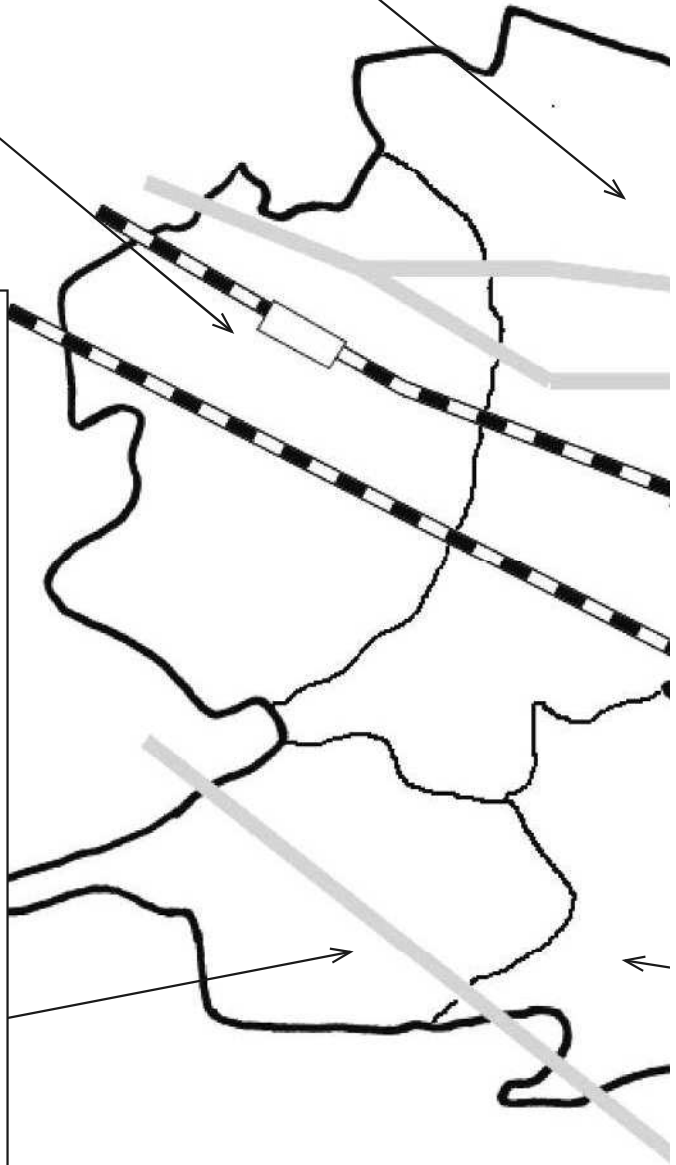
●「彩の国黒豚」の生みの親

笠原五郎吉（一八八五年～一九五八年）



笠原五郎吉
[ふかやデジタルミュージアム]より

一八八五年、黒田村（現在の深谷市花園地区）に生まれました。品質の良い黒豚の飼育に成功しました。適度な歯ごたえがあり、脂肪の甘さがおいしい黒豚ですが、白豚にくらべて飼育がむずかしいのが欠点でした。五郎吉が、手間と時間をおしみなくかけ、飼育に成功した黒豚は、今も「彩の国黒豚」として生産されています。





深谷の子「6つの誓い」

しふさわ まいいち おう ころ つかや きょういく
 深谷栄一翁の心を受け継ぐ深谷教育

ゆめ 夢とところざしをもち、まごころと思いやりのある深谷の子



りっし せいしん ゆめ
 立志の精神(夢とところざし)



ちゅうじょ ころ おも
 忠恕の心(まごころと思いやり)



わたし
 私は、

ゆめ
夢

む どころよく
 に向かって努力します。

夢は、人生を豊かに
 します。
 目標を立て、日々努
 力し、「ところざし」
 としてかかげていきま
 しょう。



わたし
 私は、

まいにち べんきよう
毎日勉強

します。

真剣に授業にのぞみ
 学び合うなかで、学力
 は定着します。
 家庭でも計画を立て
 て、毎日学習をしまし
 よう。



わたし
 私は、

たいけん
体験

します。

実際に身をもつて学
 ぶことで、新しい発見
 ができます。
 今までやっていなか
 ったことにも挑戦し、
 体験を広げていきまし
 よう。



わたし
 私は、

**すすんで
 あいさつ**

をします。

あいさつは、社会生
 活の基本です。
 「おはよう」「いってきます」
 だれにでも、気持ち
 をこめて、笑顔で元氣
 にあいさつをしましよ
 う。



わたし
 私は、

め
くつろえ

をします。

くつろえは、気持ち
 を整えることにつな
 がります。
 いつでもどこでも、
 自分のくつろえはもちろ
 周りのくつろえも、そつと
 そろえてみましょう。



わたし
 私は、

こころ
**心のこもった
 ことば**

をつかいます。

「ありがとう」「どういたしまして」
 「ごめんなさい」「大丈夫です」
 支え合い、助け合い、
 人への思いやりは、温
 かい言葉となって表れ
 ます。ことばを大切に
 しましょう。

写真は全て渋沢史料館所蔵

深谷市教育委員会・深谷市子どもサポート市民会議・深谷市PTA連合会

深谷の子「6つの誓い^{ちか}」とは

深谷市のめざす子ども像「夢とところざしをもち、まごころと思いやりのある深谷の子」の育成につながる行動目標として、「立志の精神（夢とところざし）」で3項目、「忠恕の心（まごころと思いやり）」で3項目をかかげました。

「立志の精神（夢とところざし）」の3つに込められた思い

私は、夢に向かって努力します。

ばくぜんと抱いていた夢の中から、自分の成長とともに、自分が果たすべき役割など、進むべき道を定め、「ところざし」としてかかげて行ってほしい、という思いを込めました。

私は、毎日勉強します。

学校の授業においては、主体的・対話的な学び合いによる深い学びをこれからも行っていくとともに、各校で特色ある取組をしている家庭学習を今後も引き続き進めて行ってほしいという思いを込めました。

私は、たくさん挑戦、体験します。

社会的なルールを守ったうえで、今までやってこなかったことにも挑戦し、自分のはばを広げたりこれまでの自分をこえたりするチャンスでもあります。たくさんの体験により「ところざし」を立てる際の幅を広げて行ってほしいという思いを込めました。

「忠恕の心（まごころと思いやり）」の3つに込められた思い

私は、すすんであいさつをします。

あいさつを交わすことで互い気持ちよく過ごせます。あいさつは社会生活の基本といえます。家庭でも朝起きたら「おはよう」を交わすなど、身近なところから忠恕の心を大切に感じてほしいという思いを込めました。

私は、脱いだくつをそろえます。

くつそろえは、一度自分の行動を止めることで、自分の気持ちを整えることにつながり、けじめの心を育てます。訪れた家でも、出かけた先でも玄関などをちらかさないまごころのある行動ができる、そんな子どもになってほしいという思いを込めました。

私は、心のこもったことばをつかいます。

言葉は心を表し、温かい言葉が心を開きます。支え合いや助け合いから、人への思いやりは温かい言葉となって表れます。家族や身近な人にも、相手を思いやった言葉づかいをしてほしいという思いを込めました。

6月6日を「深谷の子『6つの誓い』の日」（令和元年度から）

- 子供の育ちや学びには、基本的な生活習慣・学習習慣が大切です。「深谷の子6つの誓い」は、その習慣作りとなるものです。深谷の子の育ちをさらに支援するため、みんなで認め励ます日にしましょう。
- 渋沢栄一翁の精神やその心を話し合しましょう。

家族と一緒に「6つの誓い」に取り組もう！

6月6日
深谷の子「6つの誓い」の日

☆「6つの誓い」をお家の人と一緒に声に出して読んでみましょう。

- ・私は、夢に向かって努力します。
- ・私は、すすんであいさつをします。
- ・私は、毎日勉強します。
- ・私は、脱いだくつをそろえます。
- ・私は、たくさん挑戦、体験します。
- ・私は、心のこもったことばをつかいます。

☆「6つの誓い」の中から、お家の人と一緒に取り組むことを選んで書きましょう。

わたし
私は、

☆誓いに向けて具体的にできることを考え、お家の人と一緒に取り組んでみましょう。

わたしの取り組

お家の人から

月日	じぶん	お家の人
/		
/		
/		
/		
/		
/		
/		

(◎・○・△でふり返り)

☆お家の人と一緒に取り組んでみて、感じたことや思ったことを書きましょう。

わたしの取り組

お家の人から

深谷市歌

作詞 大久保ソノエ

作曲 松原の三三三



一
レンガの駅舎で 微笑みかわす
七色の光あふれる 花と緑の大地
遙かな山河を そよ風が吹いてくる
みんなの笑顔が 虹の架け橋
深谷 輝くまち 深谷 私のみち

二
歴史が育む 城下の宿場
新しき日本創りし 人の生まれし大地
世代を受け継ぐ 進取の気志
みんなに笑顔を 時の架け橋
深谷 希望のみち 深谷 私のみち

三
利根川 荒川 悠久 流れ
豊穰の恵もたらす 生命育む大地
遙かに聞こえる エスエルの汽笛さえ
みんなを笑顔に 夢の架け橋
深谷 愛するまち 深谷 私のみち



青淵公園 イルミネーション

【深谷市の風景】



小山川



ふっかちゃん 田んぼアート



ねぎと雪



鐘撞堂山

「渋沢栄一 ころろざし読本～深谷の心を紡ぐ～」編集委員等

※敬称略・順不同

【編集協力委員】

嘉藤 央 荻野 浩和 強瀬 哲朗 本多 斎士 齋藤 直美 小谷野 聖二
浜野 清人 谷脇 由利奈 菅原 郁郎 高野 明秀 古澤 美和子 末松 裕
小林 真穂 大熊 弘明 武井 一郎 会田 友香 松本 勇輝 大竹 真人 清水 祐輔

【編集検討委員】

土井 雅弘 斉藤 実 関口 良子 松島 猛 河田 重三 大澤 誠一

【協力者】

※挿絵協力 新井 彩加 津久井 里奈 / 埼玉県立深谷第一高等学校美術部生徒ほか

【深谷市教育委員会事務局】

小柳 光春 植竹 敏夫 吉田 勇 関根 正雄 小林 亘 飯塚 健太 浦部 誠

協力機関

深谷市役所 渋沢栄一記念館 渋沢史料館 富岡市役所 他

参考文献

- ・「渋沢栄一伝記資料（本編全58巻、別巻全10巻）」 / 渋沢栄一伝記資料刊行会
- ・「渋沢栄一を知る事典」編：渋沢栄一記念財団 / 東京堂出版
- ・「雨夜譚」著：渋沢栄一（自伝） / 岩波文庫
- ・「論語と算盤」著：渋沢栄一 / 国書刊行会
- ・「渋沢栄一」著：渋沢秀雄 / 渋沢栄一記念財団
- ・「論語講義」述：渋沢栄一 / 明德出版社
- ・「公益の追求者・渋沢栄一」著：渋沢研究会 / 山川出版社
- ・「尾高惇忠」著：荻野勝正 / さきたま出版会
- ・「日本煉瓦100年史」 / 日本煉瓦製造株式会社
- ・「学習まんが 人間 渋沢栄一」著：渋沢史料館 / 竜門社
- ・「渋沢栄一のころろざし」著：山岸達児 / 教育出版センター新社
- ・「八基写真帖」 / 旧八基村
- ・「八基村誌」 / 旧八基村
- ・「雄山物語」 / 旧川本町教育委員会
- ・「赤煉瓦物語」 / あさを社
- ・「埼玉人物辞典」 / 埼玉県（埼玉県教育委員会編集）他
- ・「『青い目の人形と近代日本』 渋沢栄一とL・ギュリックの夢の行方」 / 世織書房
- ・「原典で読む渋沢栄一のメッセージ」 / 岩波書店 他

表紙等写真 清水 勉

「諏訪神社と血洗島獅子舞」 渋沢栄一翁と表紙写真について

表紙の写真は、渋沢栄一翁がとても好んだと言われる、諏訪神社と血洗島獅子舞です。1571（元亀2）年の開始と伝えられ、諏訪神社に奉納されます。栄一翁自身も幼いころ舞いました。その獅子舞は今も10月に行われています。

裏表紙に関して

「深谷まつり」（裏・右上） 「岡部ふれあいカーニバル」（裏・左上）
「小前田屋台まつり」（裏・右下） 「重忠まつり」（裏・左下）

編集・発行 深谷市教育委員会
〒366-0823 埼玉県深谷市本住町17番3号
Tel 048-572-9578（学校教育課）
発行日 令和2年3月16日